

2021年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	西村 貴子	職名	講師	学位	修士(栄養科学)(中村学園大学2018年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
食生活学(臨床栄養を含む) スポーツ科学・応用健康科学	健康と食生活, 食教育, 食と環境, 栄養アセスメント スポーツ栄養学, 障害者スポーツ, 栄養指導

研究課題
1. 臨床における障がい特性に合わせた効果的な栄養アセスメント項目の探索 2. 日本人障がい者を対象とした基礎代謝量等のエネルギー消費量推定に関する基礎研究 3. 身体活動(運動を含む)量と摂食行動および摂食関与因子との関連についての検討

担当授業科目
臨床栄養管理学(2年後期) 臨床栄養学実習(3年後期) 栄養教育論実習Ⅱ(3年後期) 運動・環境と栄養(3年後期) 運動栄養演習(4年前期) 総合演習Ⅱ(4年前期) 管理栄養士演習Ⅱ(4年通年) 臨地実習Ⅱ(3年後期から4年前期) 初年次セミナーⅠ(1年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【臨床栄養管理学】 本科目では、基礎分野(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち・基礎栄養学)で学んだ栄養についての知識(理論)を、病院や介護といった臨床(現場)でどのように活用するか、その実践方法の修得を目的とした。具体的には、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の手法、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用等について、理解を深め、多職種連携を含めた総合的な栄養ケアマネジメントの考え方について、病院で行われている事例を提示しながら、解説を行った。
授業科目名【臨床栄養実習】 傷病者、要介護者および障がい者に対する栄養管理を実践するためには、個人の疾患を理解し、身体状況、栄養状態、価値観、社会経済状況等を総合的・全人的に理解して、適切な栄養管理を提案する必要がある。本科目では、傷病者の抱える栄養障害の病態の理解から課題を明確にし、栄養ケアプロセス(NCP)に基づいた栄養管理を行うため対応力を身に着けることを目的とした。経腸栄養剤の粘度の確認や試飲を行い、的確な栄養補給法の選択に必要な地域を付け、具体的な症例からのNCPの演習を行った。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】 栄養ケアマネジメントを行うためには、対象者の望ましい行動形成と変容を図るための教育的手法を修得する必要がある。本科目では、人間の行動に関する科学的な根拠をもとに、傷病者を対象とした個人栄養指導・集団栄養指導それぞれの利点・欠点の理解するため、具体的な教育手法についてロールプレイングを取り入れた実習を行った。

授業科目名【 運動・環境と栄養 】 3 人の教員が分担する栄養学科 3 年生のための講義である。運動刺激に伴った生理反応と栄養の関連について講義を行った。特に、スポーツ栄養分野で重要視されるパフォーマンスの向上のための競技別の体格獲得に向けた栄養管理について講義を行った。
授業科目名【 運動栄養演習 】 食生活や身体活動は、子どもの健全な発育発達のみならず、成人期以降の生活習慣や健康状態にも影響する。しかし、健康や体づくりに関する栄養や身体活動に関するマス・メディア情報やインターネット情報が散乱しており、管理栄養士は、栄養の専門職として社会的ニーズに対応し適切な情報提供する任を担う。特に、スポーツ栄養の分野では、未だ栄養アセスメントに関するエビデンスが不足している現状にある。本科目では、運動栄養学に必要な基礎知識を活用して様々な競技種目の特性について文献調査を通して理解を深め、管理栄養士として、栄養プラン提案をプレゼンテーションと通じて発表することにより、運動・スポーツ分野で活躍するための実践能力を身につけることをねらいとした。
授業科目名【 総合演習Ⅱ 】 本科目では、実践栄養分野において、管理栄養士としてのマネジメント能力を培うことを目的とする。基礎分野を踏まえ、「臨床栄養管理学」および「栄養治療学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を実際に演習した。具体的には、疾患を持つ症例を具体的に提示し、それらに対して、特有の病態や治療法の把握、栄養アセスメント項目の選択と総合的な栄養評価の実施、目標の設定、栄養補給方法の選択や症例に提示する行動計画といった詳細な栄養ケア計画立案に至るまでの一連のマネジメント手法について、実際の状況を想定した演習（訓練）を行った。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】 本科目は、管理栄養士国家試験「臨床栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。演習問題の直接の内容にとどまらず、実際の現場での活用方法や他職種の理解及び連携について実例を提示し、一部に固執せず、多面的かつ総合的な判断ができるような講義展開を行った。
授業科目名【 臨地実習Ⅱ 】 本実習は、臨床栄養の実践活動の場（病院）における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3 週間の実習を行うため、事前学習として、オリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、個別に添削指導しできる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。初年次セミナーⅠでは、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本の強化を図るため、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ICT 活用法等、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。特に、栄養学科の学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等、実際の事例を用いることにより、理解を促した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年 4 月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会会員	正会員	2014 年 4 月～現在に至る
九州体育・スポーツ学会会員	正会員	2015 年 6 月～現在に至る
日本健康支援学会会員	正会員	2015 年 12 月～現在に至る
日本体力医学会	正会員	2017 年 5 月～現在に至る

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 高校女子陸上長距離選手の月経状況と利用可能エネルギー量および栄養素等摂取量:加速度計法を用いた検討	共著	2021年7月	日本スポーツ栄養学会第7回大会 (誌面発表)	①日本人女性アスリートの利用可能エネルギー量(EA)の基準値の設定を目的とし，高校女子陸上長距離選手を対象に，運動エネルギー消費量を加速度計法にて客観的に評価し，月経状況とEAならびに栄養素等摂取量の関連を検討した．高校女子陸上長距離選手における月経周期異常は，EAの低下が関連する可能性が考えられた． ②渡邊雄一，熊原秀晃，西村貴子，片渕奈々，平方美都希，石塚麗，小清水孝子，大和孝子 ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2. 高校・大学女子陸上長距離選手の月経状況と利用可能エネルギー量および栄養素等摂取量	共著	2021年8月	九州体育・スポーツ学会第70回記念大会 (オンライン)	①本研究は，高校・大学女子陸上長距離選手を対象に，運動エネルギー消費量を加速度計法にて客観的に評価し，月経状態とEAならびに栄養素等摂取量の関連を横断的に検討した結果，高校・大学女子陸上長距離選手における月経周期異常は，糖質摂取量の低下に起因したEAの低下が関連する可能性が考えられた． ②渡邊雄一，西村貴子，相川響，熊原秀晃 ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3. 若年成人男性における中・高強度運動が食欲関連ホルモンおよび食事摂取に及ぼす急性影響	共著	2021年9月	第40回日本臨床運動療法学会学術集会 (オンライン)	①乳酸閾値強度(LT)に代表される中等度の運動は，健康の保持増進に有効であるが，運動実施後の食欲や実際の摂食行動は十分に検討されていない．本研究では，LTならびに高強度の一過性運動が，直後の食欲関連ホルモンおよび食事摂取に及ぼす影響を検討した．

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. 若年成人女性における中等度および高強度運動が味の欲求感情に及ぼす急性影響	共著	2021年9月	第40回日本臨床運動療 法学会学術集会 (オンライン)	高強度運動の直後はアシル化グリ リンが減少し、たんぱく質不足に 起因したエネルギー摂取量の低下 が誘発される可能性が考えられた 。一方、LT運動は、運動直後の食 欲関連ホルモンおよび摂食行動に 及ぼす影響は認められなかった。 ②西村貴子, 熊原秀晃, 一田木綿 子, 綾部誠也, 飛奈卓郎, 吉村英 一, 中野修治⁵ ③研究遂行においては共同研究に つき本人担当部分抽出不可能 ①運動実施が味の欲求感情に及ぼ す影響を理解することは重要であ る。本研究の目的は、中等度・高 強度運動が甘味・塩味・脂質・酸 味に対する欲求感情に及ぼす影響 を明らかにすることであった。味 の欲求感情は、運動強度により影 響される因子と運動実施に伴う気 分・感情により影響される因子が ある可能性が示唆された。 ②石澤由夏, 熊原秀晃, 西村貴子, 平田遼, 八尋瑞季, 一田木綿子, 綾部誠也, 飛奈卓郎, 吉村英一, 中野修治 ③研究遂行においては共同研究に つき本人担当部分抽出不可能

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
【委員会等】 ・公益財団法人福岡県体育協会 スポーツ医・科学サポート事業 ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート事業 ・福岡県女性アスリート医科学サポート研究委員会 ・一般社団法人日本パラ陸上連盟 強化委員会 ・一般社団法人日本車いすテニス協会	スポーツ医・科学スタッフ (スポーツ栄養領域) 栄養領域スタッフ 委員 強化委員 栄養サポート強化スタッフ	2013 年 4 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る 2019 年 12 月～現在に至る 2020 年 4 月～現在に至る 2020 年 4 月～現在に至る
【講習会・セミナー等 他】 ・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第 1 回 JPA 暑熱対策セミナー ・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第 2 回 JPA 暑熱対策セミナー ・日本パラ陸上競技連盟 東京パラ事前合宿 ・東京 2020 パラリンピック競技大会 ・福岡県栄養士会生涯教育 勤労者支援事業部実務研修 ・春日市食育講演会	講師 講師 栄養スタッフ 競技団体村外支援スタッフ (日本パラ陸上競技連盟) 講師 講師	2021 年 6 月 19 日 2021 年 7 月 5 日 2021 年 8 月 14 日～8 月 24 日 2021 年 8 月 24 日～9 月 6 日 2022 年 1 月 29 日 2022 年 2 月 19 日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職, 委員, 学生支援など)
・学生個人情報保護委員会委員 (2020 年 4 月～2022 年 3 月) ・情報システム管理運用委員会委員 (2020 年 4 月～2022 年 3 月) ・学生募集委員会委員 (2022 年 4 月～現在に至る)